

岡山芸術交流 2016 オルタナティブマップⅡ

詳しくは www.oasamap.jp



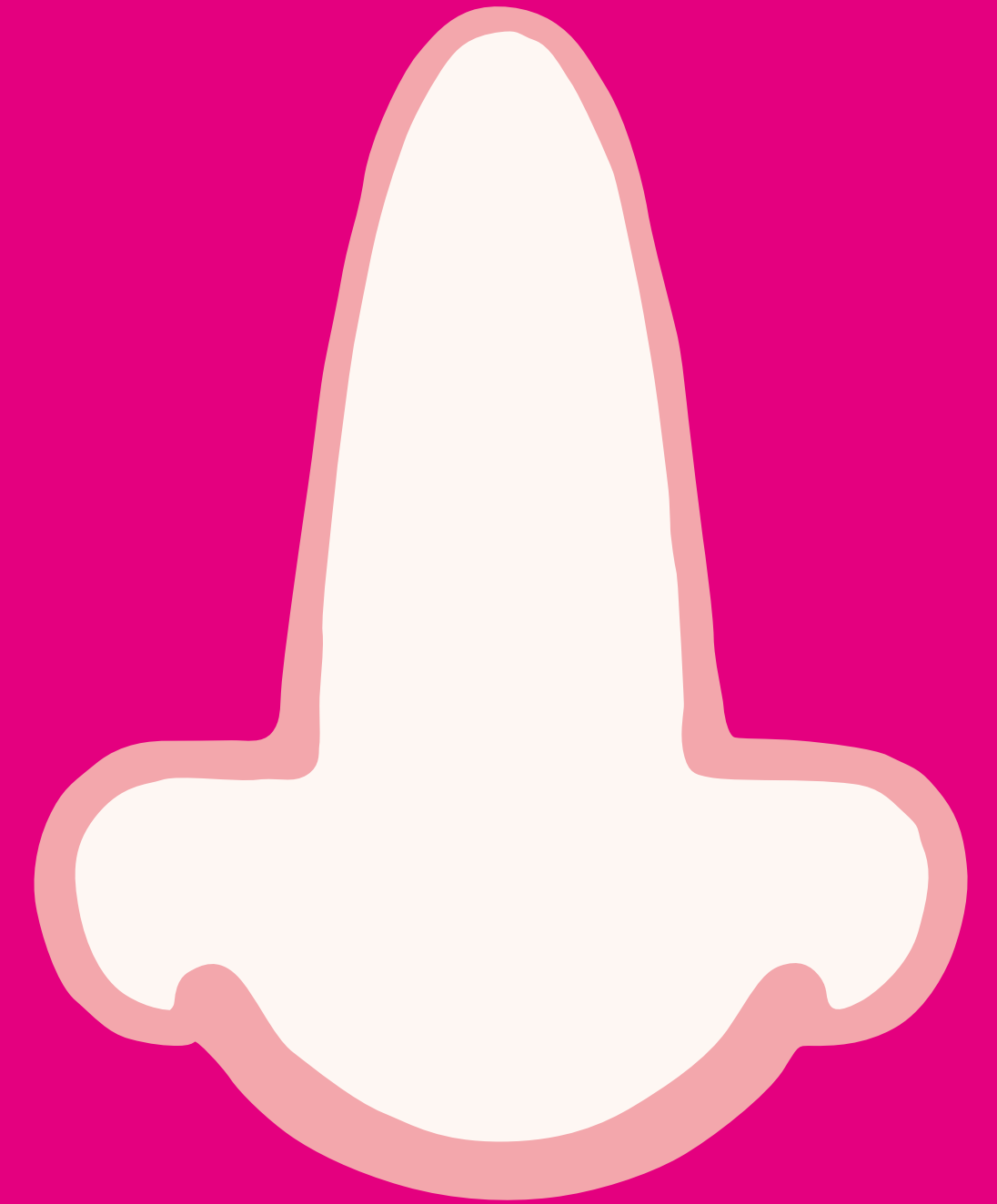
オルタナティブマップⅠ 眼(美術館エリア)



オルタナティブマップⅢ 口(春遊町エリア)

- Art spots:
- Okabiru Market
 - Wood Sign of Tokiwagi
 - Tamachi- Bashi
 - Sign of People
 - Logo of Goto Coffee
 - Glass Tiles of Coiffeur Akita
 - Okayama Baptist Church
 - Swan at the Riverside
 - Old Office BLD of Ryobi
 - Birds Tree
 - Ceiling Lights of Lagurima
 - Pouches at Korakuza
 - Struts of Ancient Rails
 - Wall at the Basement Stairs
 - Crane of Egg
 - Awning of Taiju
 - Shop Curtain of Naritaya
 - Aoyagi-Bashi
 - Local Pictogram
 - Track of Free Factory (City Hall Annex)
 - Lamp of "YU"
 - Water Fountain in Nodaya-cho Park
 - Curving Building
 - Okayama Waffle
 - Window of Tailor London
 - Chinese Characters in the Wall
 - View from Roof Terrace of City Hall
 - Covering Tiles in Inryoji
 - Nishigawa Green Road Park
 - Statue of Kazuji Fukutake and Inonotus Mikadoi

岡山芸術交流 | Public Program 2016
www.facebook.com/oas.publicprogram



探求 Quest | Map

岡山芸術交流 | Public Program 2016
10.9.2016 - ?
www.oasamap.jp

岡山芸術交流

オルタナティブマップとは

「岡山芸術交流 Okayama Art Summit 2016」は、芸術を通して国境や文化、世代を超えた様々な交流が生まれることをめざして開催される大型国際展覧会です。

関連事業であるパブリックプログラムでは、「岡山芸術交流」が地域に開かれ、根ざし、持続・発展していくための“人や場所の発掘と関係性の構築”と“文化資産の活用と発信”を目的に、トークイベントの開催や各種企画を行っています。

この「岡山芸術交流オルタナティブマップ」は、市内を回遊しながら岡山の魅力を“発見・探求・伝播”していただくために、街に点在する多様多様な見どころを独自の視点で編纂しています。

展覧会で美術作品を鑑賞するように町並みを捉え直して歩いてみれば、何気ない日常の風景や事物が、人々の営みや創意工夫の込められた“逸品”として、あるいはコンセプトualアートに通じる問いかけのようにも感じられるのではないのでしょうか。

また、見どころの紹介とともに、岡山のカルチャーシーンを牽引するスペースなども地図上に記していますので、ぜひ、実際に訪れてみてください。

本マップは3部作
眼（美術館エリア）／鼻（西川エリア）／口（奉還町エリア）で構成し、特設ウェブサイトにも連動しています。第1弾＝眼で「発見 Discovery」し、第2弾＝鼻を利かせてさらに「探求 Quest」し、第3弾＝口（口々）「伝播 Propagation」していただければ幸いです。

企画監修
木ノ下智恵子
岡山芸術交流2016パブリックプログラム ディレクター

編集・デザイン
桑田奈美枝 Satellite 代表 ギャラリスト
輪原ヨウスケ COCHAE デザイナー
内海慶一 著作家 コーパイター
脇英巳 webデザイナー

岡山芸術交流の開催期間が終了した後も、ぜひこのマップをご活用ください。

〈オルタナティブマップⅡ 範囲〉
岡山市街 西川エリア

岡山芸術交流2016
開発 / Development
2016年10月9日(日)～11月27日(日)

9:00～17:00(入館は16:30まで)
休館日：月曜日(10月10日を除く)

＜会場＞ 旧後楽館天神教会跡地/岡山県天神山文化プラザ/岡山市立オリエント美術館/旧福岡醤油建物/シネマ・クレール 丸の内/林原美術館/岡山城/岡山県庁前広場/岡山市内各所

www.okayamaartsummit.jp/

執筆 / 推薦者
K=桑田奈美枝
U=輪原ヨウスケ
U=内海慶一

デザイン
輪原ヨウスケ (COCHAE)
※デザインフォーマットは岡山芸術交流フライヤーへのオマージュです。

WEB&MAPデザイン
脇英巳

Art spots

Okabiru Market ① 岡ビル



Okabiru Market
A great potential BLD
Photograph by Keichi Utsumi

岡ビル市場(岡ビル百貨店)は昭和26年、1階が店舗で上の階は住居という職住一体型の建物としてオープン。岡山にまだ鉄筋コンクリート造りの建物が少なかった時代、画期的な商業施設として県内外の話題を集めた。青果、鮮魚、惣菜、調理用具……岡ビル市場は今も「岡山の台所」として市民に親しまれている。(U)

Wood Sign of Tokiwagi ② 常盤木の木看板



Wood Sign of Tokiwagi
First castella experience
Photo by Keichi Utsumi

大正10年創業の常盤木(ときわぎ)は、岡山で最初にかステラの製造販売を始めた菓子店。創業者が長崎で修行し製法を持ち帰ったという。ガラスケースに入っている大きな“カステラ”を目の前で希望のサイズに切り分けてくれる昔ながらの販売スタイル。表の木製看板も古くから掲げられている貴重なものだ。(U)

Tamachi- Bashi ③ 田町橋



Tamachi- Bashi
Peace memorial bridge
Photography by Keichi Utsumi

西川に架かる田町橋は昭和5年竣工。波打つような欄干や親柱に乘る大きな球体など、表現主義的フォルムを持つコンクリート橋である。戦災遺跡としても知られており、欄干に残る傷跡が岡山空襲(昭和20年)の記憶を今に伝える。現在は両脇に新しい親柱と欄干が造られ、新旧が併存する珍しい橋になっている。(U)

Sign of People ④ びいぶるの看板



Sign of People
Imagine this People
image courtesy Keichi Utsumi

昭和51年創業の喫茶店びいぶる。オープン3年目から使われている看板が実に趣き深い。パノコン製のデザインが溢れる街の中で存在感を示す、人の手から生まれたことがひと目で分かるビタリング。名物「ソフトヨーグルル」の絵と文字に、人間の温かみを感じる。店名はジョン・レノンの曲「イマジジ」の歌詞の響きから。(U)

Logo of Goto Coffee ⑤ 後藤珈琲のロゴマーク



Logo of Goto Coffee
Filled aroma with beans
Photo: Keichi Utsumi

昭和24年創業。戦後の岡山に本格的な珈琲の香りを届けた後藤珈琲は、現存する岡山最古のコーヒー豆店。焙煎もしており、昭和の喫茶店ブーム最盛期はもちろん、現在も岡山の喫茶店・カフェ文化を支え続けている。看板やパッケージに刻印されているロゴマークは、先代が創業間もない頃にデザインしたものだ。(J)

Glass Tiles of Coiffeur Akita ⑥ 秋田理容室のガラスタイル



Glass Tiles of Coiffeur Akita
Passing the esprit with regimental stripe
Photo by Keichi Utsumi

初代は日露戦争から戻り、理髪店を開業。2代目は岡山空襲の後、まだ珍しかったこの鉄筋造のビルで営業を開始。現在の3代目はフランスや東京で学んだ後にこの店と共に善隣館での奉仕活動も引き継いだ。ウィンドウは先代のデザイン。サインボードと同じレジメンタル・ストライプは60年経ても色褪せない。(K)

Okayama Baptist Church ⑦ 岡山バプテスト教会



Okayama Baptist Church
Gothic arena of community
Photos: © Keichi Utsumi

昭和27年に日曜日の集会を目的として作られたバプテスト派の教会。一見すると木造だが、躯体は鉄骨。デザインはゴシック建築の様式を踏襲している。毅然とした佇まいが美しい。西川沿いの変わりぬシンボルである。献堂後60年以上を経て徐々に変化する生じているが、信徒により大切に使われ続けている。(J)

Swan at the Riverside ⑧ 川辺の白鳥



Swan at the Riverside
Where is the swan now?
Photograph: Keichi Utsumi

岡山市街地を流れる西川。その川辺に、永遠の清流を願って昭和54年に建てられた白鳥放鳥記念碑がある。川を見下ろすように設置された。描かれた大きな白鳥の彫像。夜に歩いていて本物の白鳥と見間違っってしまふという人ものいるらしい。西川で一休みしている本物の白鳥や野鳥との共演もしばしば目撃できる。(J)

Old Office BLD of Ryobi ⑨ 旧・両備バス*本社



Old Office BLD of Ryobi
Aircraft carrier on shore
Photograph: Keichi Utsumi

昭和30年に落成した旧本社は、3代目松田基社長の希望で「航空母艦」をイメージした木造建築だ。印象的な窓が並ぶデザインは司令塔、前庭は飛行甲板。真実にも見える建物は「現場には金をかけるが、建物には金をかけない」という創業以来の伝統によるもの。再開発での取り壊しが決まっている。(K)

*現・両備ホールディングス株式会社

Birds Tree ⑩ 鳥のなる木



Birds Tree
Sounds of tweeters
© Keichi Utsumi

夕暮れ時に岡山駅の東口に降り立つと、どこからともなく反響音のような音が聞こえてくる。幻聴? 駅を背に歩き始めるとその音が大きくなっていくに気付く。ふと頭を上げると通りに並ぶ木々に、まるで果実のように鳥がたわわに「なっている。ムクドリたちのおしゃべりが、夜の暗りを飲み込むように響く。(K)

Ceiling Lights of Lagurima ⑪ ラグリマの天井照明



Ceiling Lights of Lagurima
One of ordinary coffee shops
Photography by Keichi Utsumi

純喫茶ラグリマの創業は昭和53年。それ以前から「ルビー」という名で営業しており、合計すると50年程の歴史を持つ。店名はスペインの作曲家フランシスコ・タレガ作のクラシックギター曲「ラグリマ(涙)」から。陽が美しく差し込む落ち着いた空間は、歓楽街の近くとは思えない上品な静けさに満ちている。(J)

Pouches at Korakuza ⑫ 後楽座の大入り袋



Pouches at Korakuza
Entertainment in all ages
Photograph by Keichi Utsumi

前身は大正9年に蓮昌寺に開設した映画館。昭和14年にこの場所に「ニシキ館」としてオープン。岡山空襲で全焼するも昭和36年に再建。平成22年に閉館したが、その後に入ったのが大衆演劇場の「後楽座」。月替わりで劇団が、毎日違う演目で公演する。真の「大衆演劇」が体感できる貴重な空間となっている。(K)

Struts of Ancient Rails ⑬ 古レールの支柱



Struts of Ancient Rails
Beyond the oceans, beyond the time
© Keichi Utsumi

明治24年(1891年)に開業した岡山駅。その2番線ホームには、古レールを転用した支柱が並んでいる。よく見ると「1887」「CAMMEL」などの刻印が読める。これはイギリスのCAMMEL社が1887年に製造したレールなのだ。海を渡ってやってきたレールが、役割を終えた後も世を超えて働き続けている。(U)

Wall at the Basement Stairs ⑭ 地下階段の壁



Wall at the Basement Stairs
A part of the original
Photos: © Keichi Utsumi

岡山駅の初代駅舎が健在だった頃、大正11年に地下コンコースが造られた。幾度となく塗装され、現在では古さを感じさせるが、階段の壁に貼られたタイルには昔の雰囲気が残っている。開業して120年以上経つ岡山駅の中には、凝視しなければ見えない歴史の痕跡がいたるところに顔をのぞかせている。(J)

Crane of Egg ⑮ つるの玉子



Crane of Egg
Legend of texture of feather
Photo: Keichi Utsumi

下山松齋軒は4世代続く老舗和菓子店。明治20年、日本に伝わったばかりのマシュロを使い、鶴の羽の質感を表現したハイカラなお菓子「つるの玉子」を開発した。素材にどこまでもこだわ、合成着色料や保存料などは一切使用していない。林芙美子の小説「放浪記」にも出てくる、まさに「レガシスイーツ」。(K)

Awning of Taiju ⑯ 大樹の装飾テント



Awning of Taiju
Mighty timber
Photos: © Keichi Utsumi

居酒屋「大樹—ryomi—」の装飾テントが素敵だ。大きな樹木をイメージした形状は、店名に因んでオーナーが発案したもの。モコモコと並んだ5つの山型がかわいらしい。施主のアイデアを具現化した職人技もみごと。樹木の下をくぐって中に入れば、ゆったりくつろげる居心地のよい空間が広がっている。(U)

Shop Curtain of Naritaya ⑰ 成田家の暖簾



Shop Curtain of Naritaya
Our old standby
image courtesy Keichi Utsumi

岡山エリアだけに展開する老舗居酒屋チェーンの成田家。県内に20店舗はどあり、名物「鳥酢」などの定番メニュー以外はオリジナルアレンジで各店ごとに味が違うという特殊形態。「うまく早く感じ良く なをかつ安く」という成田家のチーゼを暖簾にした田町店は創業40年を超える人気店。暖簾の言葉に偽りない。(J)

Aoyagi-Bashi ⑱ 青柳橋



Aoyagi-Bashi
Red-crowned crane on the bridge
Photograph: Keichi Utsumi

岡山市街地を流れる西川に、タンチョウ(鶴)の姿をした橋が架かっている。首と顔にあたる部分が街灯になっている点がユニークだ。この道は旧山陽道で、東へ向えば岡山後楽園に到るため「後楽園通り」と呼ばれている。後楽園ではタンチョウが飼育されており、「タンチョウの園内散策」を見学できる日もある。(U)

Local Pictogram ⑲ ご当地ピクトグラム



Local Pictogram
Secret story in public
Photography by Keichi Utsumi

道路案内標識の「著名地点」を表す標示にはピクトグラムが描かれている。全国共通のデザインもあるが、地域固有のスポーツの場合、当然ピクトグラムもその場所できれなければならない「ご当地もの」になる。「図」と「地」のみで表現されるピクトグラムは、シンボルであるがゆえにデザインの奥深さを感じさせてくれる。(U)

Track of Free Factory (City Hall Annex) ⑳ 自由工場跡(市役所分庁舎)



Track of Free Factory (City Hall Annex)
A story continue to be handed down
Photo by Keichi Utsumi

平成5年末から平成7年春までの1年半、ここに「自由工場」と呼ばれる場所があった。解体が決まったビルが美術家・建築家・市民・学生らに解放され「アールスペース」として自主運営された。全国から400名を超える希望者が「工具」として参加した想像力の「町工場」として、今も継り継がれている。(K)

Lamp of “YU” ㉑ 「ゆ」のランプ



Lamp of “YU”
Lighting up an old social occasion
Photo by Keichi Utsumi

田町温泉は昭和22年から現在のスタイルで営業しているが、建物の歴史はさらに古い。岡山空襲を逃れたこの建物は、1世紀近くの歴史を持つ。外壁に施されているスクラッチタイルは大正末期から昭和初期にかけて流行ったものだ。地域に愛されてきた銭湯。夜に灯る「ゆ」のランプが、今日も人々を出迎えてくれる。(K)

Water Fountain in Nodaya-cho Park ㉒ 野田屋町公園の水飲み場



Water Fountain in Nodaya-cho Park
Modernism and minimalism
Photograph by Keichi Utsumi

野田屋町公園の水飲み場がスタイリッシュだ。特に珍しいタイプのものではないが、モダニズムは有名な建築だけではなく、こうした街の片隅にも息づいているのだからということを出させてくれる。人造石洗い出し仕上げ(モルタルと種石を混ぜたもので天然石のように見える工法)が生む独特の質感も味わい深い。(U)

Curving Building ㉓ カーブするビル



Curving Building
Lingering on the circle
© Keichi Utsumi

柳川交差点は戦後の都市復興計画で「円形ロータリー」として構想されたが、工事直前になって一般的な交差点に変更された。その結果、交差点を取り囲む歩道スペースが巨大なサークル状の敷地となって残っている。南西にあるビルが円に沿うようにカーブを描いているのが興味深い。それは、都市の記憶の反映だ。(U)

Okayama Waffle ㉔ オカヤマワッフル



Calabash Sign of Okina-Ken
Special local treat
image courtesy Keichi Utsumi

岡山で「ワッフル」と言えば、ベルギーではなく白十字。昭和32年の創業以来、長く親しまれてきたロングセラーだ。以前は秋から春にかけてのお楽しみだったが、改良を重ね、平成27年秋より通年販売されるようになった。表面に浮き出た「waffle」のふわっとした文字まで美味しそう。(K)

Window of Tailor London ㉕ テーラーロンドンのウィンドウ



Window of Tailor London
Living Taiisho modernism
Photo by Keichi Utsumi

紳士服の仕立屋「テーラーロンドン」の創業は昭和24年。入口の横にあるステンドグラス風の絵は、現店主が平成初頭に自ら描いたものだ。特殊な接着剤に顔料を混ぜ、1枚のガラスの上に絵を描く技法。店名に因みロンドンの街並みがモチーフになっている。自社ビルの外壁を覆う備前焼のタイルも壮観だ。(U)

Chinese Characters in the Wall ㉖ 漢字彫刻



Chinese Characters in the Wall
Chinese poetry at the Hall
Photos: © Keichi Utsumi

岡山市役所1階の壁に、中国／明の学者・薛瑄(せつせん)の「征政名言」の一節が、味のある書体で切り出されている。「心の持ち方は公正 己のおきては廉潔 目につかえるには礼儀 人々に接するには信義 部下に対しては寛容 事柄の処理には敬虔」という意味だ。見事な文字造形とその内容に背筋が伸びる。(J)

View from Roof Terrace of City Hall ㉗ 市役所屋上からの眺望



View from Roof Terrace of City Hall
Secret spot in public
Photo by Keichi Utsumi

昭和43年、モダニズムの建築家として知られる山下秀郎の事務所が設計した岡山市役所庁舎。意外と知られていないが、屋上には展望室があり、誰でも自由に立ち入ることができる。また、展望室から屋上スペースに出て周囲をぐるりと歩けば、岡山市街地を全方向から一見できる。空中庭園的な空間設計がすばらしい。(U)

Covering Tiles in Inryoji ㉘ 蔭涼寺の巴蓋



Covering Tiles in Inryoji
Lucky charm
© Keichi Utsumi

蔭涼寺の山門には、桃の形をした巴蓋(ともえぶた)が乗っている。桃は古来より魔除けの意味を持ったためだ。偶然だが、岡山の名産である桃と重なるのが面白い。現在の桃巴蓋は30年ほど前に作り直したもののだが、もともと乗っている約400年前の桃巴蓋も保管されており、境内に入ればどちらも鑑賞することができる。(U)

Nishigawa Green Road Park ㉙ 西川緑道公園



Nishigawa Green Road Park
Seeking better for all
image courtesy Keichi Utsumi

総延長2.4kmの緑豊かなこの公園は、昭和49年から9年間を費やし「緑の回廊」として整備された。当時の市長の「緑と花・光と水」の街づくりという強い政策理念により完成。四季折々の100種類を超える植物、噴水や水上テラスなどが楽しめる。岡山のシンボルとして、現在もより良い活用方法が模索されている。(J)

Statue of Kazuji Fukutake and Inonotus Mikadoi ㉚ 福武一二像とカワウソナケ



Statue of Kazuji Fukutake and Inonotus Mikadoi
Going through a transition
Photo: © Keichi Utsumi

桜の木の最期に、寄り添うように宿る鮮やかなカワウソナケ。春になると毎年当り前のように咲く桜の木にも寿命はあるのだ。その隣で街を見渡しているのは福武一二像。戦後の岡山で映画経営に乗り出し、県下最大の映画興行主となった。昭和21年にオープンした岡山松竹産は現在も岡山メルパとして営業中。(K)

Cover Art

Nose 鼻



Nose
Quest
design by Yosuke Jikuhara
text by Keichi Utsumi

あっちになにか
ありそうだ。
こっちになにか
あるみたい。
気の向くままに
街を探求する。
なにもない街なんて
ないんだね。